

ブラリ鳥取城下町

動機

六年生の社会で平安京のことを勉強しました。鳥取の今の地図を見ていると、平安京のように道がごぼんの目のようになっていました。しかし、幸直に交わっていない道があり、なぜ幸直に交わる道にしなかったのだろうと思いついて調べようと思いました。

調べ方

江戸時代の終わりの地図を使い、今の気になる場所を歩いて調べました。やまびこ館(鳥取市博物館)で学芸員さんに分からないことを質問しました。

色分け

※安政六年(1859)に完成した地図を参考

- 武士が住んでいたところ
- 商人・職人が住んでいたところ
- 寺があったところ

袋川(外堀)

現在の袋川は鳥取城主の池田光政が城下町を拡大するため人工的につくった川で、この川からお城傾斜が城下町です。

教えて学芸員さん!

- Q 町の名前が茶町や職人町のように、職業の名前なのはなぜですか? (●のところが)
- A 商人や職人達が武士の生活を支えるため集められたので、町の名前に職業の名前がつけました。



美保南小学校
六年 山根 優月



まとめ
実際に今の城下町を歩いて、昔の城下町と比べてみて、今でも昔の城下町の様子が感じられるところがあって、おもしろいと思いました。

世界がひろがる!

こどもと地図

教授用資料

帝国書院

2017年度

1 学期号



ブラリ鳥取城下町

鳥取県 鳥取市立美保南小学校 中山 直子

はじめに：鳥取市にある鳥取城は、1581（天正9）年羽柴秀吉の兵糧攻めの舞台になったことで有名です。関ヶ原合戦後、入城した藩主池田氏により城下町として整備されました。天守閣のあった久松山（標高263m）の山頂から鳥取市内が一望できます。しかし、第二次世界大戦中の鳥取大地震、戦後の鳥取大火により江戸時代からの城下町のようなすが残るところはほぼ失われてしまいました。

作品について：山根さんは、鳥取市の城下町のようなすを江戸末期の地図を活用し、丹念に歩いて調べました。江戸末期の地図と現在のものとの違いに気づき、「ブラリ鳥取城下町」と題して興味をもって調べたことをまとめました。「若桜街道」「智頭街道」「鹿野街道」を中心に城下町として整備された鳥取市は、大地震と大火により江戸時代の名残はほとんど失われてしまいましたが、それでも堀の跡、碁盤の目のような町割りや当時の姿を残しています。

そして、「職人町」「鍛冶町」など武士の生活を支える町のようなすが町名で残っていることにも歴史を感じます。

おもしろいのは、現在と過去の地図がリンクしていて、疑問をもって地図をながめることができ、その答えが地図をめぐることでわかるという画期的なしかけのある地図になっていることです。地図をめぐることで、現在

の住民が恩恵をうけている河川改修や大きく変わった道

路・街並みなど時代の変化によって環境や文化・生活が推移したことがよくわかります。

おわりに：現地まで調べてわからなかったことは、博物館を訪れて学芸員さんに尋ね、事実を確かめることで内容がよりしっかりした地図になりました。

作成者の話：鳥取県 鳥取市立美保南小学校

6年 山根 優月

社会科で平安京のことを勉強しました。鳥取の今の地図を見ていると平安京のように道が碁盤の目になっていました。しかし、垂直に交わっていない道があり、なぜ、この道だけちがうのだろうと思い、調べることにしました。

博物館で手に入れた江戸時代の地図を見ながら、実際に今の町を歩いてみて、気づいたこと、疑問に思ったことを、学芸員さんに教えてもらいました。垂直に交わっていない道は、城の堀がそのままの形のまいうめられて今の道になっていたこと、町の名前が江戸時代のまま残っていることがわかり、今も当時のようなすが感じることができました。

この地図をつくってからは、旅行で他の城下町に行った時にも町のすがが気になるようになりました。（所属・学年は発表当時）

工夫はここ！



▲地図の中央部分をめくってみると…